

### 3. 計画策定の背景について

#### 神奈川区の特性

神奈川区は区域全体を通じ、起伏に富んだ地形を有しています。

また、大型の集合住宅の建設が進む臨海部や農地が広がる丘陵部のほか、活気のある商店街や工業地域、漁業を営む地域など、区の中でも様々な特性があります。

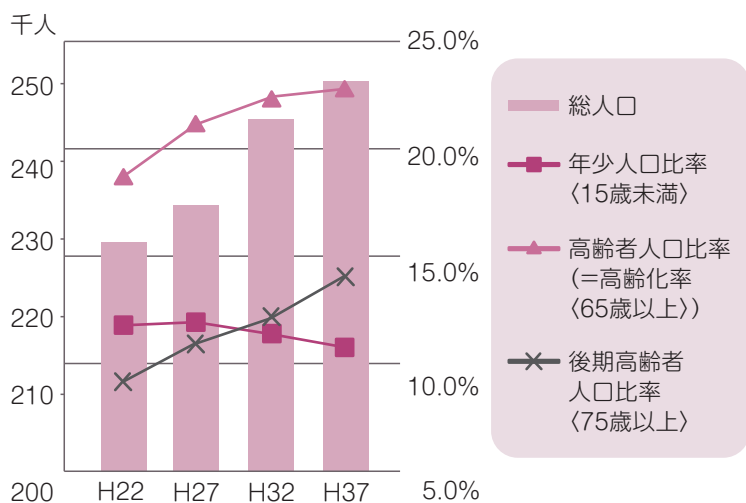
今後は、神奈川東部方面線の開通に伴う羽沢駅(仮称)の開設や、東神奈川臨海部周辺地区の再開発の進捗などにより、人口の増加や、交通の流れなど生活環境等の変化が見込まれています。

#### 人口等動態

平成27年3月現在、神奈川区の高齢化率は21%を超え、“超高齢社会”を迎えました。また『横浜市将来人口推計』によると、これから10年間で区全体の人口が約2万人増加する見込みですが、年少人口比率が緩やかに低下傾向であるのに対し、高齢化率は上昇の一途をたどる予測となっています。特に75歳以上の後期高齢者の割合は、10.7%から13.5%へと、約3%の増加が見込まれています。

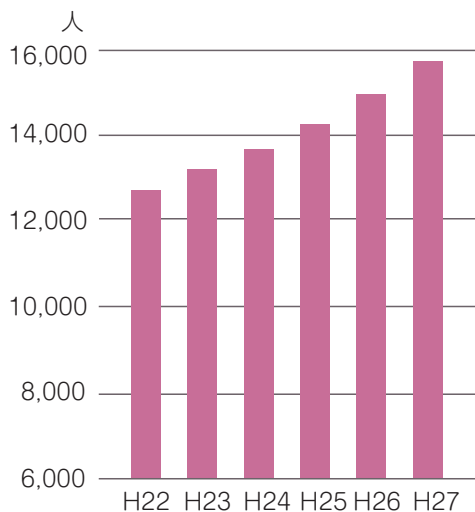
また、区内の「ひとり暮らし高齢者数」・「要介護認定者数」・「障害者手帳の交付数」などについて、第2期計画を策定した時期(平成22年)と比べ、いずれも増加しており、今後も増加することが見込まれます。

【区内総人口及び各人口比率推移・推計】



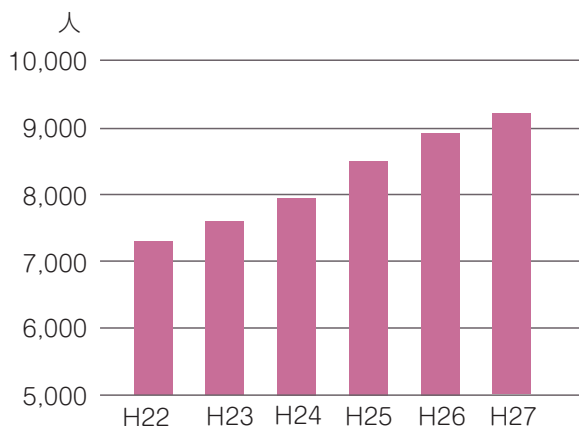
出典:横浜市将来人口推計

【区内ひとり暮らし高齢者数推移】



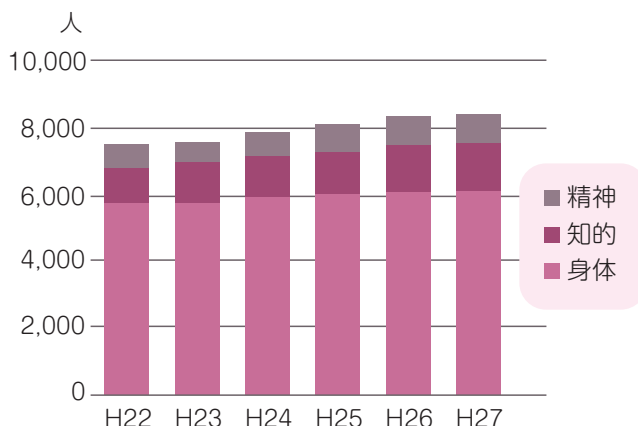
※:住民基本台帳人口より集計

【区内要介護認定者数推移】



出典:第94回横浜市統計書

【区内障害者手帳交付者数推移】



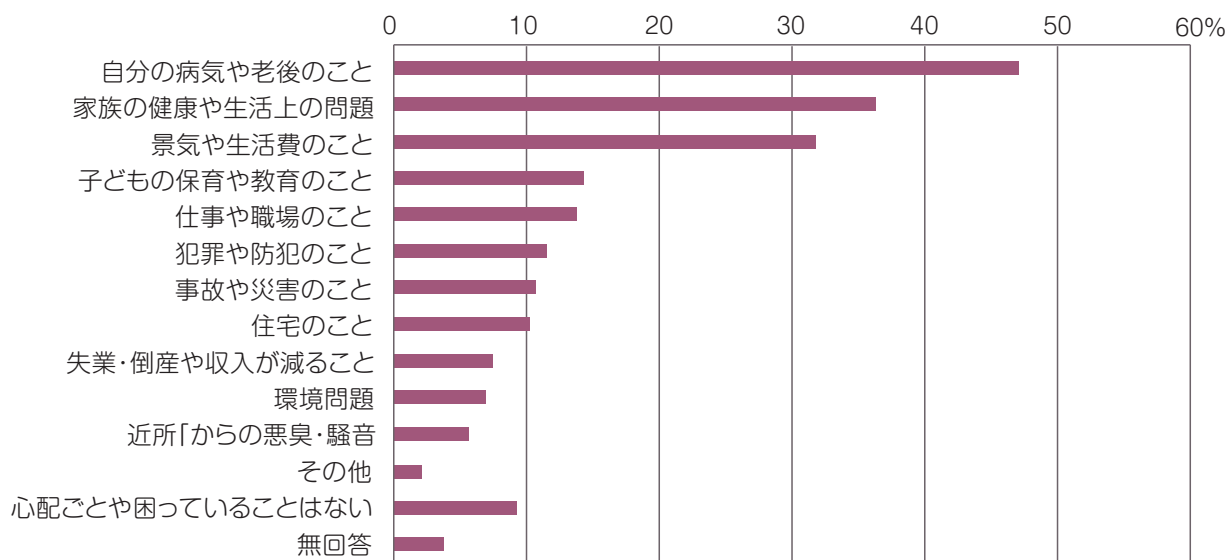
出典:第94回横浜市統計書

## 神奈川区での暮らしについて

日々の生活においては、約9割の人が心配ごとや困りごとを抱えています。

中でも、約半数の人が「自分の病気や老後のこと」に、3割以上の人が「家族の健康や生活上の問題」や、「景気や生活費のこと」にそれぞれ不安を抱えているとの回答をしており、次いで「子どもの保育や教育のこと」の回答が上位となっています。

### 【あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで心配ごとや困っていることがありますか？】



回答数=1,442、複数回答

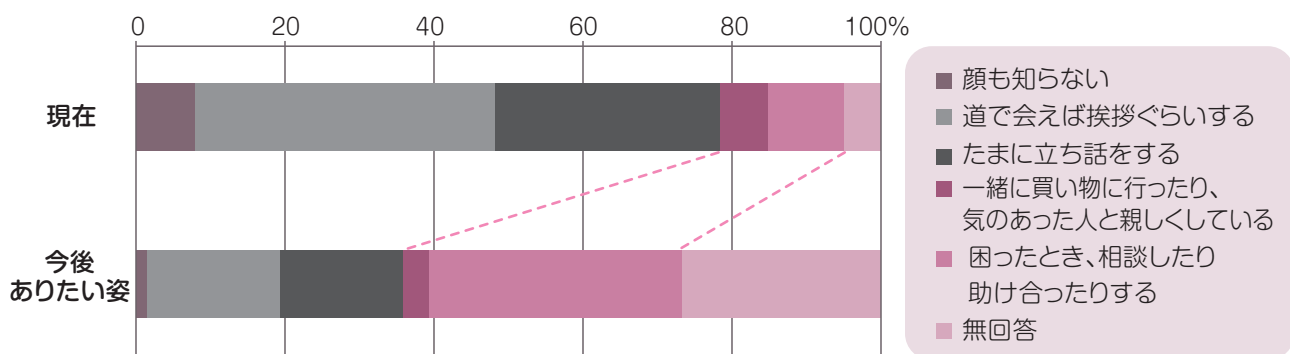
出典：平成26年度神奈川区区民意識調査

## 隣近所とのつながりについて

隣近所とのつながりについて、今後「こうありたい」と考える付き合い方は、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」との回答が最多であり、「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている」との回答と合わせ、これまでよりも一歩進んだ付き合い方を望んでいる人が多いことがうかがえました。

また、隣近所での困りごとに対して、過半数の人が「声かけや安否確認」について、3割以上の人が「ごみ出しの手伝い」や「話し相手やちょっとした相談相手」などについて、「手助けできそう、あるいは手助けしている」と回答しています。

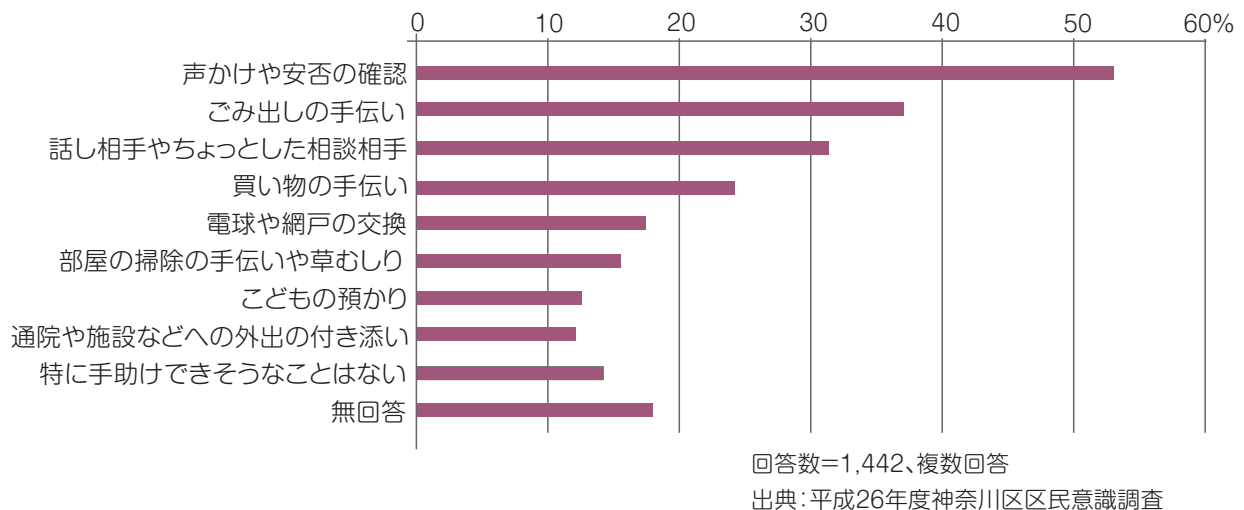
### 【隣近所と、どのような付き合い方をしていますか？】



回答数=1,442、複数回答

出典：平成26年度神奈川区区民意識調査

【ちょっとした困りごとがあった場合に、あなたが隣近所で手助けできそうなこと、または手助けしていることはありますか？】

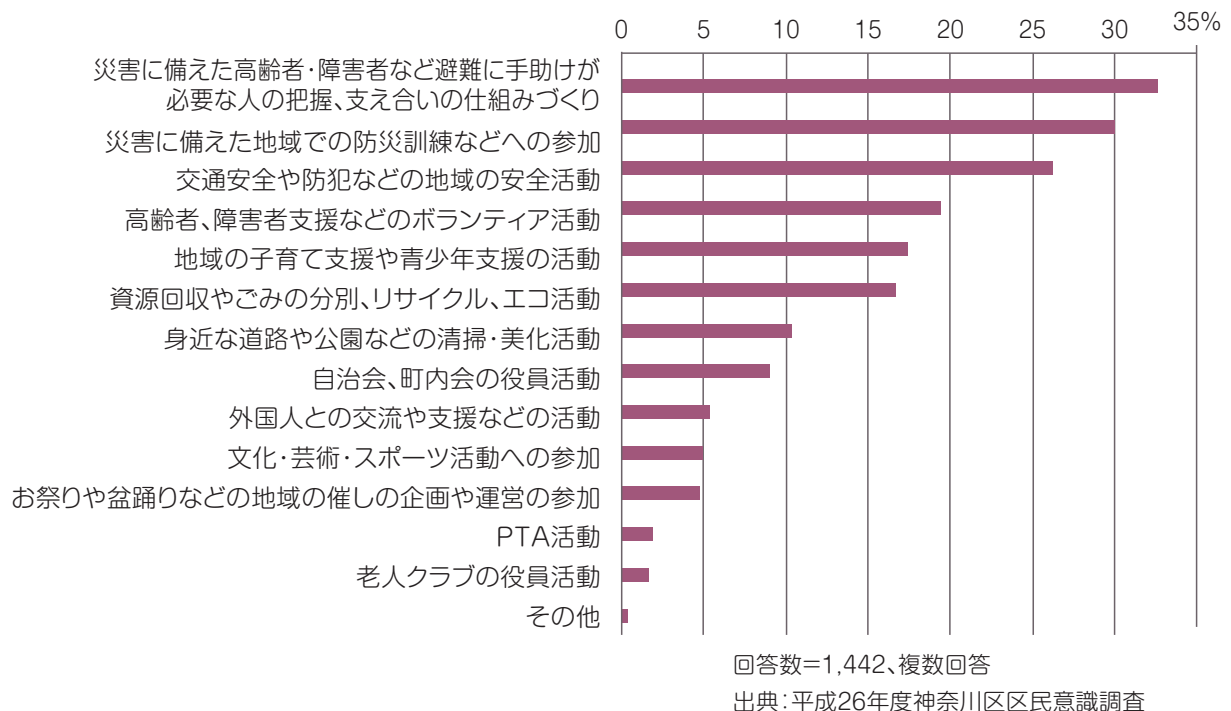


## 地域の活動について

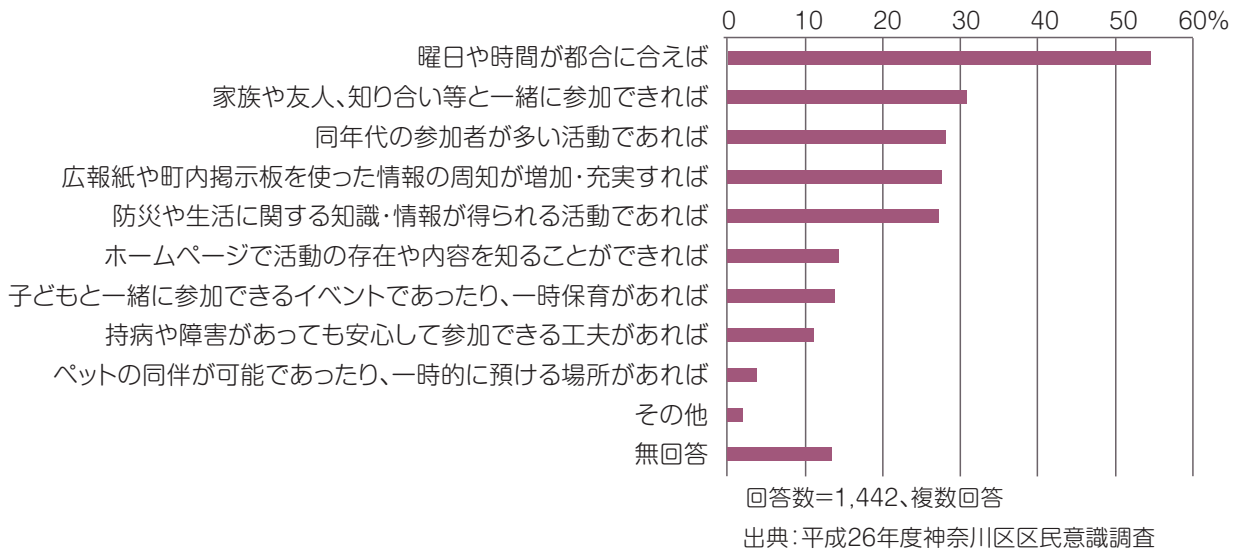
地域活動で、特に重要と考える取組について、「高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」との回答が最多であり、「防災訓練」や「地域の安全活動」と続きます。また、「高齢者・障害者支援」や「子育て・青少年支援」の回答も多く、共助の取組に対する意識の高さがうかがえます。

更に、今後それらの地域活動に参加するためには、過半数の人が「曜日や時間が都合に合えば」と回答しています。また、「家族や友人、知り合いと一緒にであれば」・「同年代の参加者が多ければ」との回答もそれぞれ約3割を占めていることから、1人きりではなく知人や同年代の人たちと共に、地域ぐるみで活動に参加できる工夫を新たにすることで、より多くの人々が地域活動に参加できるようになると考えられます。

【どのような地域活動が特に重要であると考えますか？】



**【自治会・町内会の活動について、あなたはどんな工夫があれば活動に参加できるようになる、または今まで以上に参加しやすくなると思いますか】**

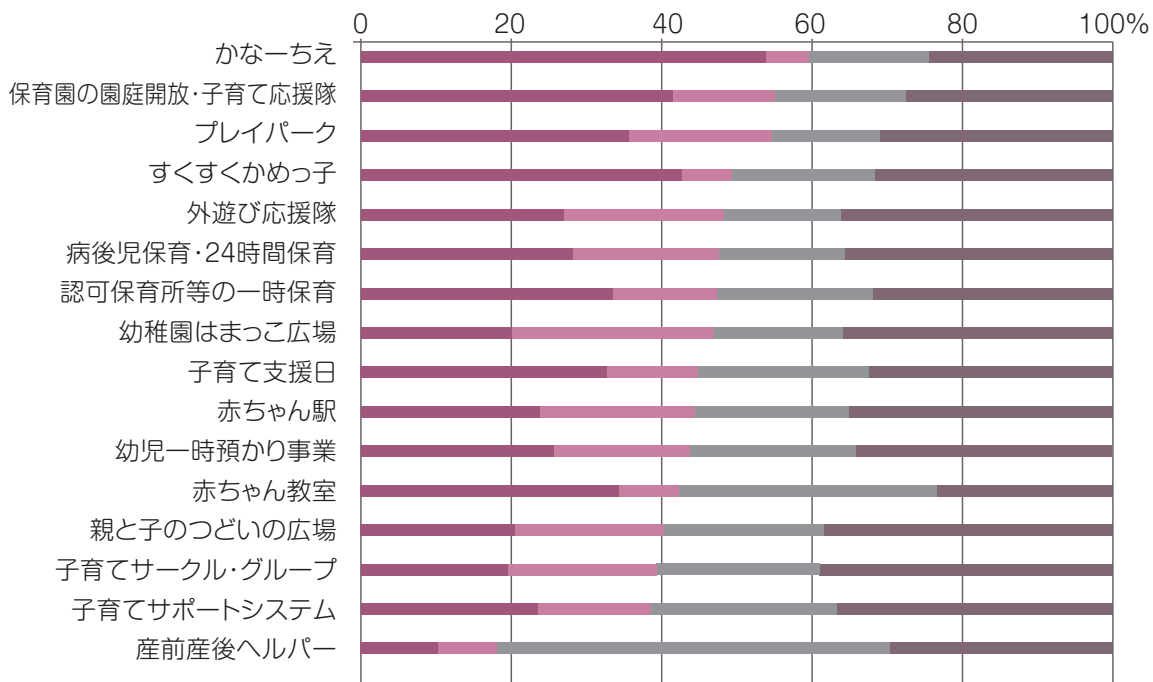


**地域の子育て環境について**

地域の子育て支援の場の利用状況について、「今後利用してみたい(現在利用者の継続利用を含む)」・「内容を詳しく知りたい」との回答は、\*「地域子育て支援拠点かなーちえ」・「保育園の園庭開放・子育て応援隊」・「プレイパーク」・「すくすくかめっ子」・「外遊び応援隊」の順で多く、親子交流や外遊び関連施設への関心が高いことがうかがえます。

なお、「すくすくかめっ子」に参加したことのある人は全体の4割弱という結果でしたが、当該参加者の約8割が「参加して良かった」との感想を回答しており、活動内容の満足度の高さがうかがえます。

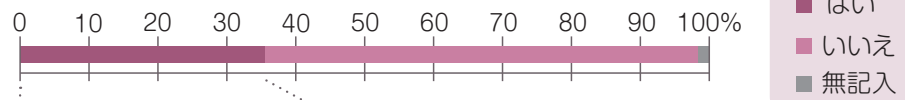
**【地域の子育て支援の場の今後の利用について】**



■ 利用してみたい (現在利用者の継続利用を含む)  
■ 内容を詳しく知りたい  
■ 利用するつもりはない  
■ わからない

回答者数=662、複数回答  
※「無回答」については、それぞれグラフへ反映していません。  
出典：平成26年度神奈川区子育てアンケート

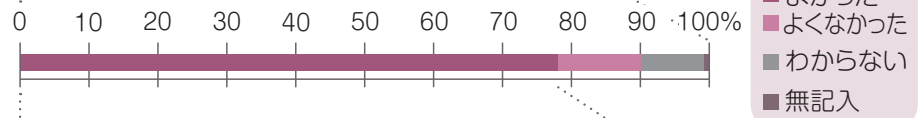
## 【すくすくかめっ子に参加したことがありますか?】



回答数=662

出典:平成26年度神奈川県子育てアンケート

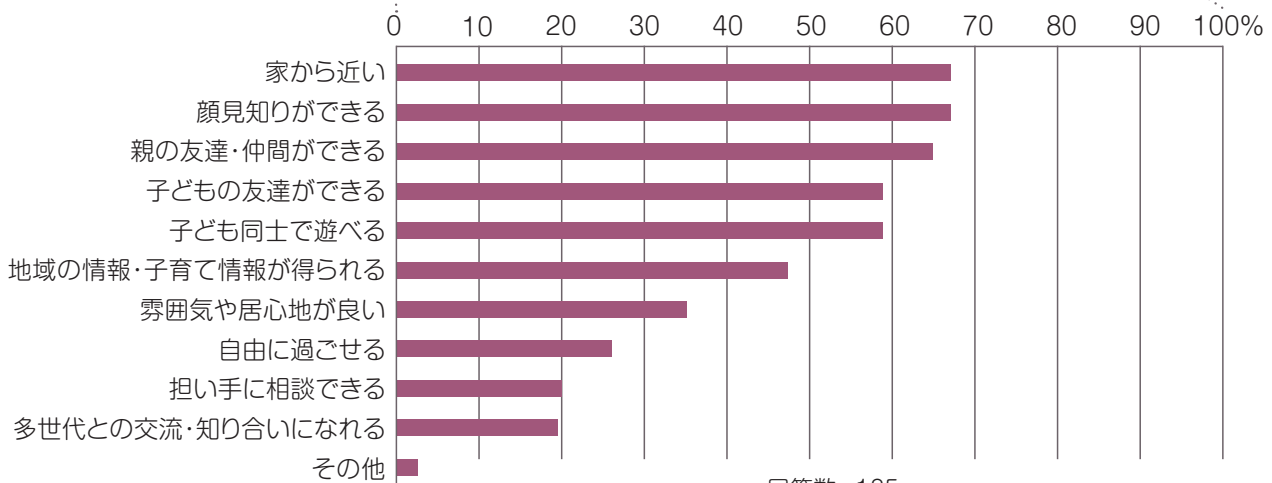
## 【参加した感想について】



回答数=237

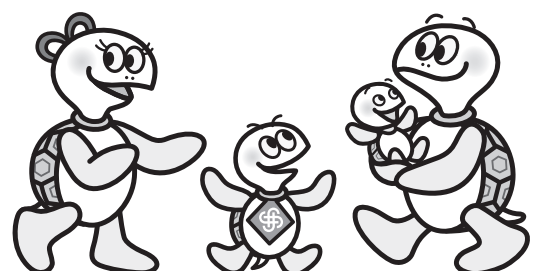
出典:平成26年度神奈川県子育てアンケート

## 【参加してよかったことについて】



回答数=185

出典:平成26年度神奈川県子育てアンケート



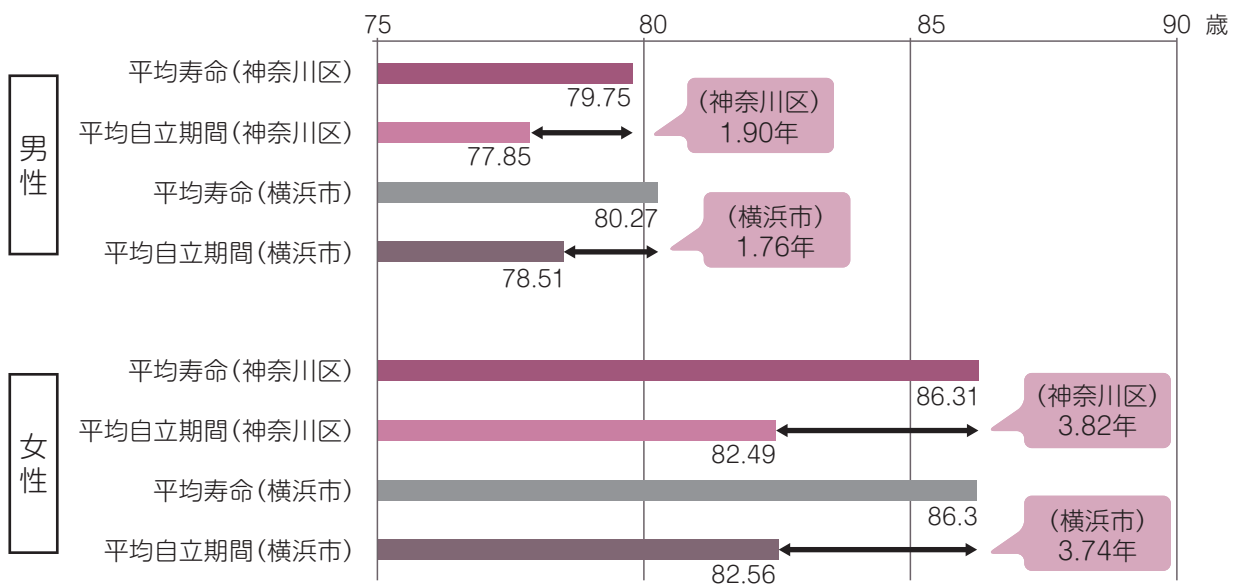
## 健康づくりについて

神奈川区民の平均自立期間は、男性が77.85歳、女性が82.49歳となっています。平均寿命から算出すると、日常生活に介護を要する期間が、それぞれ男性で1.90年、女性で3.82年となる見込みであり、男女ともそれぞれ横浜市平均よりも長い期間となっています。

生活習慣面では、健康づくりのためにこれから取り組みたいことについて、回答は「適度な運動」・「十分な睡眠」・「定期的な健康チェック」・「バランス良い食事」と、4点に集中しています。

また、国民健康保険の特定健診受診率について、区の受診率は19.2%となっており、横浜市全体の受診率の20.4%を下回っています。

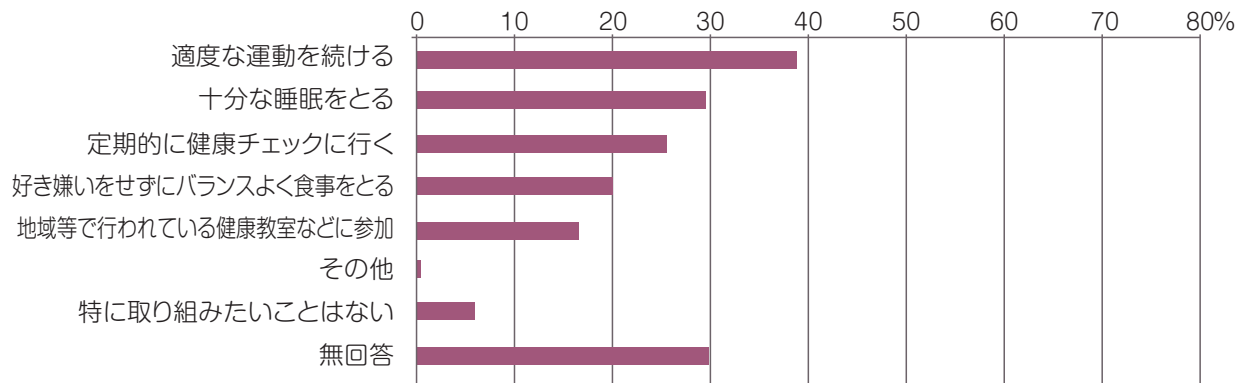
### 【平均寿命と平均自立期間について】



出典：平成23年度区別平均自立期間

男女別平均寿命(横浜市・18区別)

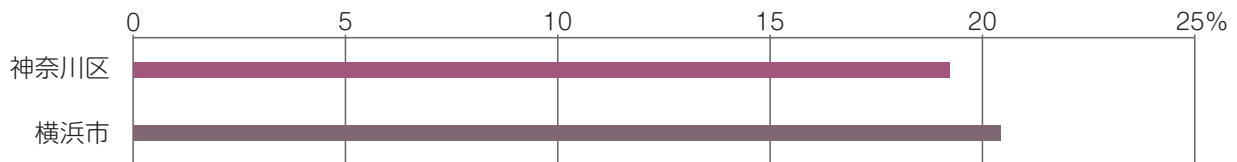
## 【健康づくりのために、これから取り組みたいことはありますか?】



回答数=1,442、複数回答

出典:平成26年度神奈川県民意識調査

## 【国民健康保険特定健診受診率】



出典:平成25年度法定報告

